

母子健康手帳等に関する意見を聴く会 事前ヒアリング概要

- 【日時】 令和3年8月20日(金)14時00分～15時45分
【場所】 厚生労働省子ども家庭局1205会議室(オンライン併用)
【出席者】 子育て中の厚生労働省職員(男5名・女8名)(子育て中の当事者として参加)
【議題】 1. 母子保健課長挨拶
2. 母子保健課から「母子健康手帳等に関する意見を聴く会」の趣旨説明
3. 自己紹介
4. 各テーマに沿って意見交換



(1) 母子健康手帳について

○母子健康手帳は誰のものか・母子健康手帳の名称について

- ・母と子の内容を将来的に分けられるとよい(母親の情報の記載があり、子に手帳を渡すことに抵抗がある)
- ・相談時、妊娠歴を聞かれることがあるので、母子の情報は一緒に見られるとよい。
- ・母子健康手帳はセンシティブな内容が記載されており、父親は触りにくい。
- ・父親が乳幼児健康診査等の事業に関わる機会が少なく、手帳に触れる機会もほとんどない。
- ・手帳は、実用という意味では、現状は母子のものとなっている。
- ・母子健康手帳は母子の記録ではあるが、父親の情報も書けるとよい。
- ・夫婦が手帳を一緒に見られる仕掛けがあるとよい。

○電子母子健康手帳の活用について

- ・妊婦の職業や通勤方法等の記載項目について、紙だと情報の更新がしづらい。アプリなら更新し易い。
- ・紙は、パッと見て分かりやすく、次の妊娠の時に見返せるのが良い。子どもに手渡せるのもよい。
- ・電子と紙の両方走らせるのがよい。
- ・手帳の内容で全国共通なのは省令様式のみ。どこまでを電子化するか検討が必要。
- ・東日本大震災の時、手帳が流されたことを考えると電子化はよいと思うが、データを医療機関等とすべてが繋げるのは難しいのでは。本人が入力できる形が良いのでは。
- ・アプリは便利だが、個人情報の漏洩が心配。電子化しないといけない理由は何か。自治体で管理してもよいのでは。
- ・任意様式の欄は内容があり過ぎる。ネットで氾濫している情報より信頼できるので、QRコードで見られるとよい。
- ・任意様式は自治体によってカスタマイズしているが、生命や障害等に関わることは任意ではなく掲載して欲しい。

母子健康手帳等に関する意見を聴く会 事前ヒアリング概要

(2) 妊婦健康診査等の在り方について

○妊婦健診の回数について

- ・妊娠初期の健診の頻度が少ない。心配だったのでもっと相談したかった。
- ・妊娠の回数が多くなると健診回数が負担に感じる。妻は、特に妊娠後期、体が重い中タクシーで受診し疲れていた。
- ・オンライン健診ができるとよい。妻と一緒に健診に行っていたが休みを取るのが難しかった。また、妊娠初期は不安で相談したいというニーズなので、オンラインでもよいのでは。

○診察や相談の在り方

- ・医学的な診察の機会と助産師への相談の機会を分け実施できるとよい。
- ・主治医が健診の度が変わったり、医療機関で情報が共有されておらず同じことを話す煩わしさがあった。
- ・病院に行くまでもないが相談したい内容は、行政に繋がれるとよかった。オンラインでやり取りできる等。

○父親の関わりについて

- ・健診は一人で行くことが多かったが、指導の部分を夫に聞いてほしかった。
- ・出産に立ち会うためには健診に参加する病院の決まりがあって、健診についていくきっかけづくりになった。

(3) 乳幼児健康診査等の在り方について

○健診の回数について

- ・多いとは感じない。アメリカでの健診は問診が100問位あった。貧困・虐待・親の関わりを聞く内容が多かった。
- ・6～7か月児健診後は1歳6か月児健診なので、結構期間が空く印象があった。

○健診の内容について

- ・集団は待ち時間が長く、子どもをなだめるのが大変。かかりつけ医は子どもをよく知っているの、個別が良い。
- ・保育所では毎月計測している。保育所に来ていない等の事情がある子のフォローだけでいいのでは。
- ・低出生体重児だったので、出生直後に多く健診をしてもらえるとよかった。退院後は行政からのフォローがなく、病院から受診しなさいと言われるのが有難かった。

○小学校入学後、行政や小児科医による心理社会的面も含めた健診があった方が良いか

- ・あればやってほしい。
- ・小学校に上がると親は休暇が取れなくなり、健診に連れて行くことが難しい。相談したい時等、希望者が自身の都合よいタイミングで相談できるとよい。

